

第5学年 算数科学習指導案

日時：平成29年11月8日（水）

場所：5年生教室

授業者：

1. 単元名 「比べ方を考えよう 割合」

2. 指導の立場

(1) 単元について

第4学年までに、基準にする大きさを1として、それに対する割合を小数で表すことを経験してきている。第5学年の「2つの量の変わり方」や「小数のわり算」の学習でも、基準にする大きさを1とみる考え方を活用して、数直線を用いながら、学習してきた。

本単元では、割合、もとにする量、比べる量の関係を理解させるとともに、それらを求めることを扱う。その際に、数直線を用いて数量の関係を十分にとらえられるようにすることが重要である。関係を式だけで解決すると、その後他の問題に直面したとき、数量の関係をとらえないと立式が難しくなってしまうからである。そこで本単元では、繰り返し数直線を用いて関係を明らかにし、立式の根拠を明確にして説明する活動を大切にしていく。

また、本単元は児童にとって難しい学習といわれている。「もとにする量」「比べる量」がとらえられない児童が出てくることも予想される。数直線を用いてどれがどの量かをとらえさせることはもちろん、全体が「もとにする量」、割合を求める部分量が「比べる量」としてとらえながら、繰り返しの中で理解していけるよう指導していく。

(2) 単元の目標

割合、百分率の意味を理解し、それらを用いることができる。

関 割合、百分率、歩合のよさに気づき、生活の様々な場面で用いられていることに気づき、それらを活用しようとする。

考 もとにする量、くらべる量、割合の関係をもとに、比べる量やもとにする量を求める方法を考えることができる。

技 割合を求め、それを百分率や歩合で表したり、問題場面からもとにする量、くらべる量、割合の数量関係を読み取り、くらべる量やもとにする量を求めたりすることができる。

知 「割合」や「百分率」の意味や求め方や「百分率」「%（パーセント）」の用語、記号とその表し方が分かる。

(3) 児童の実態

本学級は、男子6名、女子4名の学級である。算数の授業は、学習リーダー中心に進めている。授業中は、考えが分からない児童がいると、分かる児童と交流し、分からない児童が「なんでこうなるの?」と聞き返したり、分かる児童が「分かる?ここまでいい?」と確認したりと、自分たちで課題を解決しようとする姿が増えてきた。こういった仲間との交流を通して、分かるまで話すことで、その時間内に「分かった!」という児童が多くなってきた。算数に苦手意識を持つ児童も多いのだが、仲間と交流して理解できたことは、楽しいと感じる児童が多いようである。

本学級の児童は、言葉と原理・計算を結びつけて考えることや既習事項の活用に弱さが見られる児童が多い。2学期に入ってから学習した「整数の性質」「分数の足し算と引き算」の学習でも、最小公倍数・最大公約数・通分・約分などという言葉と計算方法が一致せず、うまく問題を解けない児童がいた。(特に、K.K、K.T、N.M)本単元でも、数量関係を算数用語で表していくことになるため、言葉と関係がうまく結びつかずつまづく児童がいることが予想される。そこで、終末の時間を十分に確保すること、研究2と関わって基礎学や家庭学習等でも算数用語の説明や計算方法の説明を繰り返し行っていくことで、算数用語と数量関係を確実に理解できるように指導していく。

*プレテスト(10月10日実施)、授業の様子等より(11月6日現在の実態)

◎矢印を書いて操作ができる
○数直線に数量関係を正しくかける
△数直線をかくのに支援が必要

	小数のかけ算	小数のわり算	数直線	説明	支援
1. K.K	○	○	○(□の位置を正しくかけない時もある。確認の声掛けをする。)	△(自分の説明に自信がもてない時が多い。)	・ヒントカードを用いて、数直線のかき方を確認する。・考えに自信が持てるよう、個人追究で考えを認める。
2. K.N	○	○	○(立式が△の時有)	◎	
* 3. <u>K.K</u>	○	△(小数点をうち忘れることがある。)	○(考えを整理しながら考える姿勢有だが、自分で間違いに気づけないことも)	△(言葉が足りない時が多い。)	・ヒントカードの配布。・説明の内容をノートへの記述で把握し、認め声かけをする。・単純な計算ミスが無いか、確認する。
4. K.F	◎	◎	◎	◎	
* 5. K.T	○	△(わる数が大きい時の見積もりができない。)	△(数量関係が△一緒に関係を確認すると、かける。)	○(自由追究などを通して、話すことができる。)	・ヒントカードを配布する等自分で考えが持てるようにする。・単純な計算ミスが無いか、個人追究で確認する。
6. N.M	◎	◎	○	○	
* 7. <u>N.M</u>	○	△(小数点の打ち忘れることがある。)	△(数量関係が△間違いを受け入れられないこともある。)	○	・ヒントカードを配布する。 ・個人追究で実態を把握し、考えを受け入れやすい仲間と意図的にペアを仕組む。
8. N.R	◎	○	◎	◎	
9. <u>N.R</u>	○	○	○	○	
10. N.A	◎	○	○	○	

(4) 学習指導要領との関連

D (3) 百分率

(3) 百分率について理解できるようにする。

(内容の取扱い)

(4) 内容の「D 数量関係」の(3)については、歩合の表し方について触れるものにする。

3. 下呂市教育会小算部会研究に関わって

下呂市の研究主題および研究内容は、以下のとおりである。

【研究主題】

数学的な思考力・表現力を高める指導の在り方

【研究内容】

(1) 単位時間の学習の中で、子どもが考えをどう表せばよいかを系統を明確にした単元指導計画に明らかにし、その手立てを位置づけた指導をすること

(2) 問題解決に必要な数学的な思考力・表現力を支える基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に着けさせる指導の在り方を明確にすること

【研究内容(1)について】

ア 系統を明確にした単元指導計画の作成

他単位・他単元とのかかわりや単位時間につながる既習事項を明らかにし、前時までにおさえておかなければいけない内容を明確にする。

イ 教師の発問の工夫

学習内容を理解させるための発問をアの単元計画の中に位置づける。発問を位置づけ教師の出場を最小限にすることで児童の思考力・表現力を伸ばすことにつなげる。

ウ つまづきを予想した手立てを考える

アで既習事項とのかかわりが明確になると、つまづきも予想しやすくなると考える。予想したつまづきに対して、以下のような手立てを行う。

- | | |
|---------------------|------------------------|
| ・算数用語の可視化(用語カードの活用) | ・既習事項の可視化(復習揭示の作成) |
| ・ヒントカードの作成 | ・既習事項を確認するための教科書ページの提示 |

【研究内容(2)について】

ア 終末の工夫

終末には必ずプリントやペアでの説明をしあう場を設け、どこまで理解できているかを確実に見届ける。理解できていない場合には、個別に休み時間等を使って指導する。

イ 朝活動の時間や家庭学習の取り組み方の工夫

単元指導計画を基に、事前に身に着けさせておきたい知識や技能を朝活動や家庭学習を活用して、復習に計画的に取り組ませる。

○本時の目指す具体的な子どもの姿

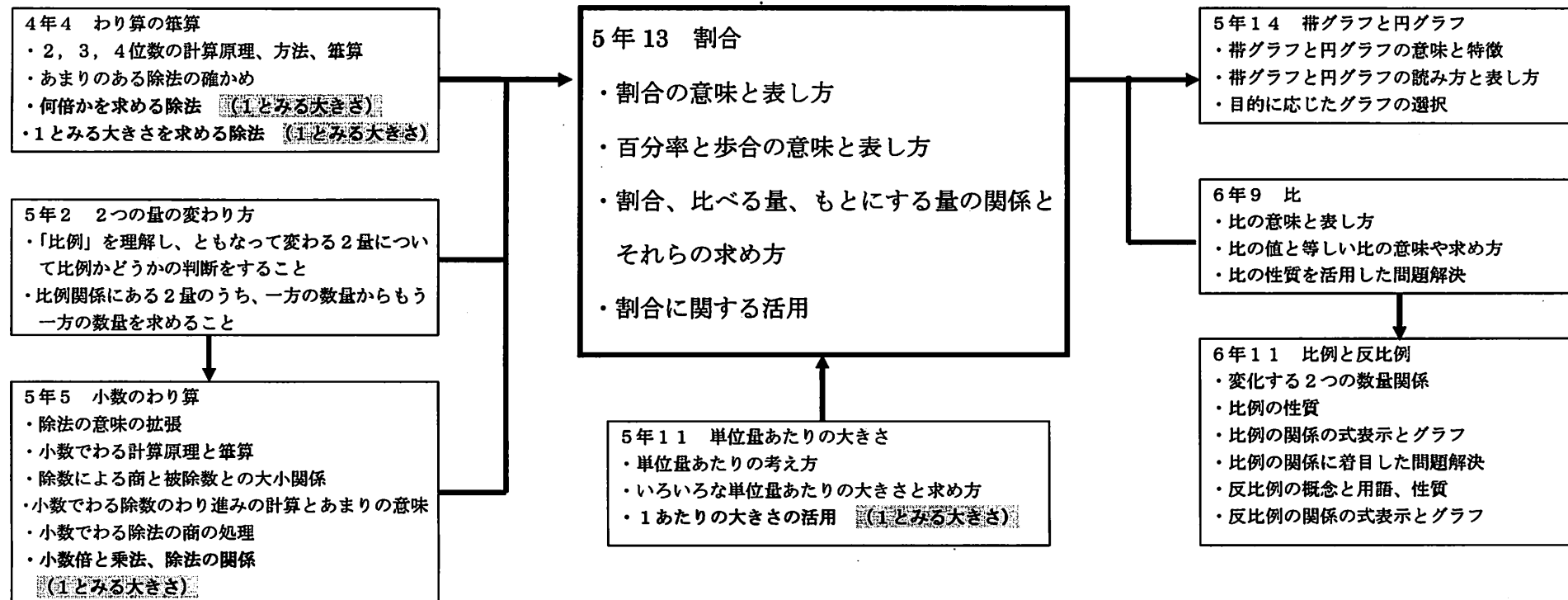
【研究内容（1）】

- イ ウ もとにする量の求め方について、数直線を用いて比べる量、割合との数量関係を明らかにしながら立式した根拠を説明することができる。

【研究内容（2）】

- ア 評価問題のプリントに数直線を用いて立式の根拠を書くことができる。
- イ 本時の学習内容について、数直線を用いながら、友達や家族に説明することができる。

4. 単元系統図



数直線 (テープ図も含む)

2年…「ばいとかけ算」

3年…「かけ算とことばの式や図」「ばいとわり算」「何十をかける計算」「かけ算とわり算」

4年…「わり算の筆算」「何倍かを求めるわり算」「1とみるおおきを求めるわり算」「何十でわる計算」「小数×整数」「小数と倍」

5年…「小数のかけ算」「小数のわり算」「小数倍とかけ算、わり算」「割合」「分数と倍」「分数と整数のかけ算、わり算」

6年…「分数のかけ算」「分数のわり算」「分数倍とかけ算、わり算」

【前単元までに身につけてきた内容】

【本単元の評価規準】

【今後の学習へのつながり】

4年4 わり算

- ・何倍かを求める除法
- ・1とみる大きさを求める除法

5年5 わり算の筆算

- ・小数倍の乗法、除法の関係

5年11 単位量あたりの大きさ

- ・1あたりの大きさの活用

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識理解
<ul style="list-style-type: none"> ・割合、百分率、歩合の良さに気づき、それらを活用しようと進んで調べたり、考えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数直線などを利用して、「もとにする量」「比べる量」「割合」の関係やその関係をもとに比べる量やもとにする量などの求め方などを考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・割合を百分率で表したり、百分率を小数で表したりすることができる。 ・比べる量やもとにする量を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「割合」「% (パーセント)」「百分率」の用語とその意味を理解している。 ・割合や百分率、比べる量やもとにする量の求め方を理解している。

5年14 「帯グラフと円グラフ」

6年9 「比」

6年11 「比例と反比例」

5. 単元指導計画

次		割合	百分率とその使い方		
時		1・2	3	4	5
ねらい	主な学習活動	・「割合」の用語とその意味や求め方を理解する。	「百分率」の意味や用語を理解し、割合を百分率で表す。	割合が1より大きい場合に、その割合を百分率で表す。	比べる量が分からない時の答えの求め方を考え、比べる量は「もとにする量×割合」で求められることを理解する。
	評価規準	【知】「割合」の用語とその意味や求め方を理解している。	【技】割合を百分率で表したり、百分率を小数で表したりすることができる。	【技】割合が1より大きい場合に、その割合を求め百分率で表すことができる。	【考】割合、比べる量、もとにする量の関係をもとに、比べる量の求め方を考えている。
授業展開		I型	I型	I型	II型
学習活動 ・児童の活動 ★主な発問等		<p>1 1とみる大きさについて復習する。</p> <p>・赤のテープの何倍かを求める問題では、赤のテープが1とみる大きさになることを確認する。</p> <p>2 問題を提示する。</p> <p>問:ある市で4つのチームがドッジボールの試合をしています。それぞれのチームのこれまでの試合数と勝った試合数は、右のとおりです。この時点で成績のよい順を調べましょう。</p> <p>・どのチームが成績がよいか予想する。(AとBがよさそうだ。)</p> <p>3 課題を設定する。</p> <p>課:AとBの成績を比べる方法を考えよう。</p> <p>4 個人追究を行う。</p> <p>・ゆいの発言や140ページの数直線をもとに、見通しをもつ。</p> <p>5 自由追究を行う。</p> <p>6 全体追究を行う。</p> <p>・試合数をそろえる方法や数直線を使って比べた方法を説明する。</p> <p>・AよりBが成績がいいことを確認する。</p> <p>★割合について数直線を用いて説明する。</p> <p>・「割合」の用語とその意味や求め方を知る。</p> <p>★みんなが求めた0.7、0.75というのは?…AとBの勝った割合!!</p> <p>・CとDの勝った割合を求め、成績のよい順を比べる。</p> <p>7 まとめ</p> <p>AとBの成績は割合を求めれば、成績を比べることができる。もとにする量を1とみたとき、比べる量がどれだけにあたるかを表した数を割合と言う。</p> <p>割合=比べる量÷もとにする量</p> <p>8 評価問題</p>	<p>1 問題を提示する。</p> <p>問:こうじさんが入っているサッカーチームの人数は20人で、そのうち7人が5年生です。5年生の人数は、チーム全体のどれだけの割合でしょう。</p> <p>・比べる量、もとにする量、割合を確認し、答えを求め。</p> <p>★0.95という割合は、95%と表すこともできるよ。</p> <p>2 課題を設定する。</p> <p>課:割合を%で表せるようになろう。</p> <p>3 全体追究</p> <p>・%、百分率の意味を理解する。</p> <p>・フラッシュカード等を用いて割合を百分率に直す練習する。</p> <p>・(りんご)1は0.01の何倍かを考えることで、1は百分率で表すと何%になるかを求める。</p> <p>問:定員85人の車両に、51人が乗っています。乗客の数は、定員の何%でしょう。</p> <p>・数直線を書き、立式し、答えを求め。</p> <p>4 まとめ</p> <p>割合を表す数が0.01の時、1パーセントといい、1%とかく。このような表し方を百分率という。</p> <p>5 評価・練習問題</p>	<p>1 問題を提示する。</p> <p>問:定員1324人の新幹線のぞみ号があります。1月2日と4日の乗客の数は右の通りでした。乗客の数はそれぞれ定員の何%でしょう。</p> <p>・比べる量、もとにする量、割合を確認する。</p> <p>2 課題を設定する。</p> <p>課:割合が1より大きい時の百分率での表し方を考えよう。</p> <p>3 個人追究を行う。</p> <p>4 全体追究を行う。</p> <p>・それぞれの割合と、百分率で表した数を交流する。</p> <p>★割合が100%より大きいくていいの? …比べる量が元にする量より大きいから</p> <p>★100%より大きくなるのはどんな時? …比べる量が元にする量より大きい時</p> <p>5 まとめ</p> <p>割合が1より大きい時も今までと同じように百分率で表すことができる。</p> <p>6 練習問題</p>	<p>1 問題を提示する。</p> <p>問:果汁が80%ふくまれている飲み物があります。この飲み物700mlには、何mlの果汁が入っているでしょう。</p> <p>・比べる量、もとにする量、割合を確認する。</p> <p>・比べる量が分からない事に気づく。</p> <p>2 課題を設定する。</p> <p>課:くらべる量の求め方を考えよう。</p> <p>3 個人追究を行う。</p> <p>4 自由追究を行う。</p> <p>5 全体追究を行う。</p> <p>・数直線を用いて、式と答え・立式の理由を説明しあう。</p> <p>700×0.8=560</p> <p>★比べる量を求める式を算数の言葉をつかってまとめると?</p> <p>・比べる量=もとにする量×割合</p> <p>6 他の問題を解いて一般化をする。</p> <p>20Lの25%は何Lでしょう。</p> <p>7 まとめ</p> <p>比べる量は、もとにする量×割合で求めることができる。</p> <p>8 評価・練習問題</p>
本時につながる既習事項		数直線、1とみる大きさ (4年小数の割り算)(5年小数の割り算)(5年単位量当たりの大きさ)	数直線 小数(4年小数)割合を求める式(前時)	数直線、割合を求める式 百分率(前時)	数直線、割合を求める式、百分率
予想されるつまずき →手立て		<p>・新しく出てきた算数用語(もとにする量、比べる量、割合)が理解できない。</p> <p>→試合数、勝った試合数を使って基準量と比較量を具体的にとらえさせる。</p> <p>用語カードを使い、学習してきた用語(1とみる大きさ、何倍の大きさ、倍)が変化したこと気付かせる。</p> <p>・数直線図がかけない。→穴埋めができる数直線がかかれたヒントカードを用意する。</p>	<p>・割合の求め方が分からない。</p> <p>→既習内容を可視化しておき、活用できるようにする。</p> <p>・1がなぜ100%になるのかが理解できない。</p> <p>→1は0.01のいくつ分かを確認する。</p>	<p>・なぜ百分率が100%より大きくなるのかが理解できない。</p> <p>→数直線をもとに、もとにする1の大きさより大きいことを確認する。</p> <p>新幹線など具体例を出して説明する。</p>	<p>・もとにする量などをとらえられない。</p> <p>→全体と部分として、とらえさせる。</p> <p>・百分率のまま計算する。</p> <p>→掲示物等を用いて百分率の意味を確認する。数直線で関係を確認する。</p>

5. 単元指導計画

次		百分率とその使い方			歩合	まとめの練習
時		6(本時)	7	8	9	10
ねらい	主な学習活動	比べる量と割合から、もとにする量を求める方法を考え、その方法を理解する。	比べる量の割合がどれだけになるかを求めるなどして、もとにする量とその割合から比べる量を求める。	比べる量の割合がどれだけになるかを求め、比べる量とその割合からもとにする量を求める。	歩合の意味とその表し方を理解し、割合を歩合で表すことができる。	練習問題に取り組む
	評価規準	【考】割合、比べる量、もとにする量の関係をもとに、もとにする量の求め方を考えている。	【考】割合、比べる量、もとにする量の関係をもとに、問題解決の方法を考えている。	【考】割合、比べる量、もとにする量の関係をもとに、問題解決の方法を考えている。	【技】割合を歩合で表すことができる。	【技、知】数量関係をとらえ、割合、比べる量、もとにする量を求めることができる。割合を表す小数や整数と、百分率の関係を理解している。
授業展開		Ⅱ型	Ⅱ型	Ⅱ型	Ⅰ型	Ⅰ型
学習展開		1 問題を提示する。 問:ハイキングコースのうちの9kmを歩きました。これは、ハイキングコース全体の道のりの80%だそうです。全体の道のりは何kmでしょう。 ・比べる量、もとにする量、割合を確認する。 ・もとにする量が分からない事に気づく。 2 課題を設定する。 課:もとにする量の求め方を考えよう。 3 個人追究を行う。 ・答えはいくつくらいになりそうかな 4 自由追究を行う。 5 全体追究を行う。 ・数直線を用いて式や答え、立式の理由を説明する。 ★もとにする量の求め方は? ・もとにする量=比べる量÷割合 6 まとめ もとにする量が分からない時は、比べる量÷割合で答えを求めることができる。 7 評価問題 8 練習問題	1 問題を提示する。 問:定価3500円のリュックサックが25%引きで売られています。リュックサックのねだんはいくらでしょう。 ・数直線に関係を表し、～引きという表現が今までの問題と違うことに気がつく。 2 課題を設定する。 課:リュックのねだんの求め方を考えよう。 ・25%引きを数直線のどこに位置づけ立式するか、教科書等を用いながら、見通しを持つ 3 個人追究を行う。 4 自由追究を行う。 5 全体追究を行う。 ・数直線を用いて、式と答え・立式の理由を説明しあう。 ・もとにする量×割合をしている事を確認 ★(ゆいさん)問題には、25%と書いてあるのに、どうして×0.75をしているの? 6 まとめ リュックのねだんも、もとにする量×割合の考えを使えば解ける。 7 評価問題	1 問題を提示する。 問:スニーカーを定価の40パーセント引きで買ったなら、1800円でした。このスニーカーの定価はいくらでしょう。 ・関係を数直線に表し、もとにする量を求める問題だということを確認する。 2 課題を設定する。 課:スニーカーのねだんの求め方を考えよう。 ・割合はいくつかを確認し、見通しを持たせる。 3 個人追究を行う。 4 自由追究を行う。 5 全体追究を行う。 ・数直線を用いて、式と答え・立式の理由を説明しあう。 ・比べる量÷割合をしている事を確認する ★1-0.4って何をしているの? 6 まとめ スニーカーのねだんも、比べる量÷割合の考えを使えば解ける。 7 練習問題	1 「割」「分」「厘」などの表記を見た経験を出し合う。 2 歩合について知る。 ★歩合について説明する。 課:割合を歩合で表せるようになろう。 3 課題を設定する。 4 全体追究を行う。 ・フラッシュカードを用いて、小数を歩合に直す練習をする。 ・割合を表す1は、0.1の何倍で何割のことかを確認する。 ☆4:150ページの本を今日までに96ページ読みました。読んだページ数は、本全体のページ数のどれだけの割合かを歩合で表しましょう。 ・数直線に関係を表し、答えを求める。 5 まとめ 割合を表す小数0.1を一割、0.01を1分、0.001を一厘と表すことを歩合という。 6 練習問題	1 課題を設定する。 課:学習したことを使って問題を解こう。 2 問題を解く。
本時につながる既習事項		数直線、割合を求める式、百分率	数直線、割合を求める式、百分率	数直線、割合を求める式、百分率	数直線、割合を求める式、百分率	割合を求める式、百分率
予想されるつまずき →手立て		・数直線に関係を表すことができない。 →①何をもとにして、②何の割合を考えるのか、③その割合は、と順に確認する。 ・数直線から立式することができない。 →ヒントカード、教科書の活用	・問題文の意味が理解できない。 →定価の意味を確認し、具体例を出しながら、結果の見通しを持たせる。 ・25%で計算してしまっている。 →「引き」という言葉に注目させる。	・数直線に関係を表すことができない。 →第6時と同じ ・かけ算をしている。 →数直線に矢印を用いて、関係をかきこみながら、立式させる。	・小数、百分率、歩合の関係が理解できない。 →関係を表した表を提示し、いつでも活用できるようにする。	・既習事項を使って、問題を解くことができない。 →復習掲示の活用 ヒントコーナーの設置

6. 本時の展開 (6/10)

ねらい：ハイキングコース全体の道のりの求め方を数直線で考えることを通して、比べる量や割合からもとにする量が求められることに気づき、もとにする量を求める方法を説明することができる。

評価基準：割合、比べる量、もとにする量の数量関係をもとに、もとにする量の求め方を考えている。

過程	学習活動	指導・援助
導入	<p>1 本時の問題を提示する。</p> <p>ハイキングコースのうち、\square kmを歩きました。これは、ハイキングコース全体の道のりの60%だそうです。</p> <p>全体の道のりは何kmでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの復習掲示をしておき、いつでも振り返ることができるようにしておく。数直線も同様に掲示しておくことで、本時数直線を活用して、問題が解けるようにする。
課題設定	<p>2 課題を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時までの違いを確認する。 <p>—今日はもとにする量がわからない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>もとにする量の求め方を考えよう。</p> </div> <p>3 見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 数直線に関係をあらわしたら、式がもとめやすそう。 もとにする 	<ul style="list-style-type: none"> 全体で問題の比べる量、もとにする量、割合を確認する。 問題文からうまく数量関係を見つけられなかった場合は、問題の状況を図示しヒントとなるようにする。 違いが出てこない場合は、本時は何を求めたらいいのかを尋ねる。 見通しが持てているかを確認し、持ていない場合は困りそうなこと、心配なことを仲間と交流することで見通しを持てるようにする。
個人追究	<p>4 個人追究を行う</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>0 9 ← □</p> <p>┌──────────┴──────────┐ (km)</p> <p>┌──────────┴──────────┐ (割合)</p> <p>0 0.6 ← 1</p> <p>$\square \times 0.6 = 9$ $\square = 9 \div 0.6 = 15$ 答え 15 km</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>0 9 → □</p> <p>┌──────────┴──────────┐ (km)</p> <p>┌──────────┴──────────┐ (割合)</p> <p>0 0.6 → 1</p> <p>0.6を1にするには、0.6で割る。</p> <p>同じように、9 kmも0.6で割る。 $9 \div 0.6 = 15$ 答え 15</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 段階別のヒントカードを用意し、どの児童も数直線を使って考えられるようにする。(数直線がかけない、関係がとらえられていない、数直線から式が見いだせない) 割合を求める式を活用しただけの児童には、どうしてこの式が正しいといえるのか数直線を使って説明するよう促す。 一つの考えが持てた児童には、教科書を見せ、数直線を用いた別の考え方で取り組むよう促す。 自由追究の前に課題を解決しきれなかった児童(答えまで求められなかった、自信がない、考え方に疑問がある等)を挙手で確認し、自由追究の必要があるかを確認する。必要がある場合には、手を挙げた児童が解決するまで児童同士で立式の仕方について話し合う。
自由追究	<p>5 自由追究を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A 「私は、ゆうとさんの考えでやりました。もとにする量の0.6倍が9になるので、$\square \times 0.6 = 9$になります。(数直線を指さしながら)もとにする量の□を求める式は $9 \div 0.6$ なので、答えは15 kmです。だから、もとにする量の求め方はくらべる量÷割合だと思います。」</p> <p>B1 「0.6倍ってどこのこと?もう一度教えて。」</p> <p>B2 「僕の考えとは違ったけど、説明を聞いてわかりました。僕はあおいさんの考え方でやりました。0.6を1にするには、0.6で割ればいいです。上も同じように、9を0.6で割ります。□(全体の道のり)は、$9 \div 0.6$で求められて、答えは15 kmです。だからもとにする量は、くらべる量÷割合で求められると思います。」</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 追究の様子を見て、困っている児童と解決した児童を意図的に組み合わせる。 ゆうとさんとあおいさんの考え方、それぞれについての説明について児童の意見がつながるように意図的に指名する。 あおいさんの考えが出てこなかった場合には、数直線を用いた立式の仕方が広がるよう、こちらからあおいさんの考えを提示し、どんな考え方で解いているかを尋ねる。
全体追究	<p>6 全体追究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの考え方を発表する。 <p>★もとにする量の求め方は?… $9 \div 0.6$、くらべる量÷割合</p> <p>7 本時の学習をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto;"> <p>もとにする量は、比べる量÷割合で求めることができる。</p> </div> <p>8 評価問題を行う。(鉛筆問題7)</p> <p>9 練習問題に取り組む。(鉛筆問題6)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「もとにする量=比べる量÷割合」を機械的に覚えるだけで終わらないように、数直線で立式したことでこの式が見いだせたことを評価する。 児童が課題に戻って考えなかった際には、課題をもう一度問い返し、もとにする量の求め方を確認する。 評価問題は、数直線を必ずかくよう指示し、数量関係を正しくとらえて立式しているかを評価する。
まとめ		